

1 三田児童館再整備の必要性

三田児童館は、市街化調整区域に立地し、昭和42年2月に建築され、厚木市内の児童館の中で最も古い児童館となります。公共施設個別施設計画では、三田児童館の目標耐用年数を建築後60年としており、令和9年に建物の更新時期を迎えることから、適正な規模での建て替えを行うことで位置付けています。

また、当該児童館は、急傾斜地の土砂災害警戒区域内にあり、交通量の多い道路（市道2-33号線）のカーブに面した施設であることから、利用する児童の安全性に配慮し、早期の移転・再整備が求められております。

【概要】

利用者数	4,621人(H31～R5の直近5年間の平均利用者数)	
開館日	359日（休館日：年末年始）	
開館時間	月曜日から金曜日まで(休日を除く)	午後1時から午後5時まで
	上記以外の開館日	午前10時から午後5時まで
おひさまタイム	火、木曜日	午前10時から正午まで
建物概要	木造平屋建て	
延床面積	194.59㎡	
各諸室	○ 事務室 10㎡ ○ 和室(12畳) 19㎡ ○ 遊戯室 67㎡ ○ 図書室 13㎡ ○ トイレほか旧調理室・管理人室	
敷地	○ 面積 1,352.76㎡ ※ 借地である三田八幡神社地含む	

2 地元からの要望・意見

三田児童館については、上三田自治会連絡協議会や三田児童館運営委員会から、主に ①建物の裏側が急傾斜地（イエローゾーン）である立地場所の危険性や、②外壁の痛みや天井裏を通る水道管の不具合など施設の老朽化、③付近の道路が急坂・急カーブである3点を理由に、かねてから新たな場所への移転を前提とした建て替え要望がされております。

3 三田児童館の再整備場所（複合化の方向性）

三田児童館の再整備場所については、公共施設個別施設計画における位置付けやこれまでの複合化に関する検討経過を踏まえ検討を行いました。

検討の結果、利用者の大半を占める児童が通う三田小学校に隣接し、交通量の多い道路に面していない三田小学校との複合化が最適であると判断しました。

(1) 適正配置検討施設

公共施設個別施設計画では、対象施設の半径 1 km 以内に立地している施設を適正配置検討施設と位置付け、適正配置（複合化・集約化）の検討を行うことを位置付けています。

施設名称 (目標耐用年数)	建築 年度	築年 数	更新 時期	構造	延べ床 面積 (㎡)	敷地 面積 (㎡)	備考 (配置状況)
三田小学校 (80)	1973 (S48)	47	2053 (R35)	RC	8108.14	24,078.00	
睦合中学校 (60)	1968 (S43)	52	2028 (R10)	RC	8,710.01	24,900.00	
睦合北公民館 (80)	1984 (S59)	36	2064 (R46)	RC	1,480.94	3,271.78	

◆公共施設個別施設計画第1期短期再編プログラム「三田児童館」抜粋

(2) 小中学校と児童館の複合化に対する基本的な考え方

公共施設個別施設計画に基づく複合化の検討に当たり、令和4年度に小中学校と児童館・老人憩の家との複合化に対する基本的な考え方を整理しています。

基本的な考え方では、児童館について、複合化の効果を踏まえ、小中学校との複合化を行うこととしています。

施設名	考え方の詳細
児童館	<p>児童館は、施設利用者の多くが児童であることから、施設の利便性向上、放課後の居場所づくりの充実の観点から、大きな効果が期待できることなどを踏まえ、小中学校との複合化を行うこととします。</p> <p>なお、複合化に当たっては、既存施設が立地する学区や老朽化状況などを踏まえて検討を行います。</p>

◆厚木市公共施設最適化基本計画に基づく小中学校と児童館・老人憩の家との複合化について（令和4年度）検討資料抜粋

3-1 三田児童館の再整備場所（複合化の方向性）

小中学校と児童館の複合化に対する基本的な考え方に基づき、三田小学校及び睦合中学校への複合化について、次のとおり検討結果を整理します。

1 三田小学校（築47年）との複合化		
位置図		
		
項目	評価	備考
立地環境	○	学校敷地内のため良好
児童の利便性	○	利用者の多くが小学生であることから、直接来館等の運用ルールの整備により、利便性の向上が期待できる
児童の安全性	○	交通量の多い道路には面していない。
<p>利用者の大半を占める小学生が通う三田小学校に隣接し、交通量の多い道路に面していなく、通い慣れた通学路を利用して行ける小学校との複合化が最適であると判断。</p> <p>個別施設計画の計画期間中（～R14）に校舎棟などの建て替えや長寿命化改修を予定していないため、単独複合化は困難。</p> <p>セキュリティ面からも、併設複合化が望ましい。</p>		

3-2 三田児童館の再整備場所（複合化の方向性）

2 睦合中学校（築52年）との複合化

位置図



項目	評価	備考
立地環境	○	学校敷地内のため良好
児童の利便性	△	利用者の多くが小学生であることから、小学校敷地内と比較して利便性は劣る
児童の安全性	○	交通量の多い道路には面していない。

現在の児童館からだいぶ離れることになり、今の児童館を利用している児童の利用が減ると思われ、地元の理解が得られにくい。


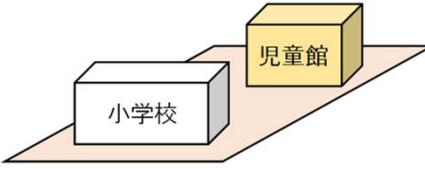
また、睦合中学校の近くには既に荻野新宿児童館があることから、近隣に2つの館がある必要性がない。

児童館を複合化する場合は、利用者のほとんどが小学生であることから、小学校に機能を配置する複合化を行うことで、より大きな効果が発揮される。

4 複合化の手法

公共施設の複合化による手法は、「単独複合施設」と「併設複合施設」の2通りの配置形態があります。

三田小学校と三田児童館の複合化の手法については、当面は校舎の建て替えや長寿命化改修の予定がないことや、学校とのセキュリティ面での対応、プール廃止の方向性から跡地利用が可能であるため、併設複合が望ましいと判断しました。

	単独複合施設	併設複合施設
定義	敷地に対し1つの建物が配置 また1つの建物に対し2つ以上の施設が配置されていること  小学校敷地	敷地に対し2つ以上の建物が異なる施設として配置されていること  小学校敷地 (隣接地を含む)

5 三田放課後児童クラブとの適正配置の検討

公共施設最適化基本計画では、目標実現のための取組として、地域単位で設置している児童館、老人憩の家、公民館などについては、複合化や集約化による統廃合の検討をすることになっています。

そこで、三田小学校の放課後児童クラブとの複合化を検討として、現状でクラブⅠ（平屋建て）及びクラブⅡ（体育器具庫2階）のプレハブを利用して運営していることから、**複合施設としての再整備**をいたします。

複合化検討 所管課	三田放課後児童クラブ こども育成課
理由等	<p>○現段階での児童推計を踏まえると、現在のクラブスペースでは年度当初に待機児童がいます。</p> <p>○現状のクラブについては、プレハブの面積上、現在の定員を増やすことができなく、また、校舎内に空いている教室もない状態です。</p> <p>○児童館の利用者(18歳未満の児童・生徒)と、放課後児童クラブとの利用者(小学生のみ)の整理が必要となるため、入り口を分ける、2階建ての2階に児童クラブを設置するなどの対応は必要です。</p> <p>○クラブⅠは平成15年3月築、クラブⅡは平成20年3月築で平成25年3月にリース期間満了により無償譲渡であり1階部は学校所有です。また、複合化することによって、一体的にこどもの居場所づくりを実現できます。</p>

6 スケジュール

年度	実施内容
令和6年度	①厚木市公共施設最適化検討委員会 ②三田児童館等複合施設整備方針作成に係る意見交換会の実施
令和7年度	①整備方針(案)に対するパブリックコメントの実施 ②整備方針の策定 ③新築設計委託
令和8年度	①三田小学校プール解体工事 ②敷地測量委託の実施 ③地盤調査委託の実施
令和9年度	①三田児童館等複合施設新築工事<年度内供用開始予定> ②【既存】三田児童館解体設計委託
令和10年度	①【既存】三田児童館解体工事

7 三田児童館の跡地利用

三田小学校プール跡地に移転整備となることから、竣工までは現在の児童館を使用します。

供用開始後の現三田児童館跡地の利用については、公共施設最適化基本計画において複合化等による余剰施設として、原則、処分することとしています。その点を踏まえた上で、借地である現状や既存建物の老朽化状況などを考慮しつつ、返還に向けて地域住民の意見も聞きながら検討していきます。

なお、児童遊園についても同様に、所管課と調整していきます。